

目次

本書の使い方

1. 本書の使い方と構成
2. 本書で用いられる主な記号

略字・略語一覧

1. 出典略字一覧
2. 辞典・文法書等の略字
3. 本書で用いられる主な略語

第11講 文27

I ●文の構造28

§119. 一致30

1. 主語と叙述動詞との一致31
2. 名詞と形容詞・形容詞相当語との一致36
3. 名詞文における主語と述語との一致42

§120. 語順53

1. 一般的な文の語順53

2. 名詞分の語順	72
§121. 格の意味と用法	74
1. kāraka の意味	75
2. kāraka と格 (Case)	77
§122. 主格の用法	79
1. 題目・表題	79
2. 主語・述語・同格語・補語	79
§123. 対格の用法	82
1. 動詞の目的語をあらわす対格語 (Ac.)	82
2. 2つの対格を支配する動詞の目的語をあらわす対格 (Ac.)	87
3. 場所をあらわす対格 (Ac.)	94
4. 不変化辞に支配される対格 (Ac.)	97
5. 時間と空間の中断のない連続性をあらわす対格 (Ac.)	98
6. 対格 (Ac.) の副詞化	99
§124. 具格の用法	100
1. 動作主を表す具格 (Ins.)	100
2. 用具・手段・方法・仕方をあらわす具格 (Ins.)	102
3. 同伴・附随をあらわす語に支配される具格 (Ins.)	108
4. 分離・除外・不足をあらわす語に支配される具格 (Ins.)	111
5. 原因・理由、目的・意図をあらわす具格 (Ins.)	113
6. 卓越・類似・同等の基準をあらわす具格 (Ins.)	114
7. 期間・一定の時間の経過をあらわす具格 (Ins.)	118
8. 必要・有益、不要・無益をあらわす表現の中で用いられる具格 (Ins.)	119
9. 特定の動詞に支配される具格 (Ins.)	122
10. 不変化辞に支配される具格 (Ins.)	123
11. 具格 (Ins.) の副詞化	124
§125. 為格の用法	25
1. 特定の動詞の間接目的語をあらわす為格 (D.)	125

2. 利益・関与をあらわす為格 (D.)	129
3. 敬礼・祝福・挨拶の対象をあらわす為格 (D.)	131
4. ‘充分な、匹敵する’を意味する語が支配する為格 (D.)	134
5. 目的をあらわす為格 (D.)	136
6. 目的地・方向をあらわす為格 (D.)	137
7. 予告・前兆をあらわす為格 (D.)	139
8. 特定の動詞が支配する為格 (D.)	139
§126. 従格の用法	143
1. 基点・出発点をあらわす従格 (Ab.)	144
2. 原因・理由をあらわす従格 (Ab.)	145
3. 恐怖・嫌悪および救出・保護、回避・防止を意味する語の対象をあらわす従格 (Ab.)	150
4. 比較・別異・遠近をあらわす従格 (Ab.)	156
5. 時間的な期間・空間的な距離の基点をあらわす従格 (Ab.)	161
6. 不変化辞に支配される従格 (Ab.)	162
7. 従格 (Ab.) の副詞化	166
§127. 属格の用法	167
1. 所有・所属・従属をあらわす属格 (G.)	168
2. 動作主・目的語をあらわす属格 (G.)	170
3. 全体 (総体) をあらわす属格 (G.)	172
4. 名詞文における関与を表す属格 (G.)	176
5. 原因・理由・目的をあらわす属格 (G.)	177
6. 方向・遠近の基点をあらわす属格 (G.)	179
7. 時間の経過をあらわす属格 (G.)	182
8. 特定の動詞に支配される属格 (G.)	182
9. 特定の形容詞に支配される属格 (G.)	189
10. 相違を意味する語とともに用いられる属格 (G.)	191
11. 過去受動分詞とともに用いられる属格 (G.)	192
12. 祝福をあらわす語に支配される属格 (G.)	193

13. 不変化辞に支配される属格 (G.)	194
§128. 処格の用法	195
1. 場所・位置・地点・所在などをあらわす処格 (L.)	195
2. 時点・時期・状況をあらわす処格 (L.)	199
3. 時間的間隔・空間的距離をあらわす処格 (L.)	200
4. 行動・動作の目的・対象をあらわす処格 (L.)	201
5. 願望・熱望を意味する語とともに用いられる処格 (L.)	208
6. 愛情・信頼・軽侮などの心的態度を意味する語とともに用いられる処格 (L.)	209
7. 熟練・熟知・精通・理解を意味する語とともに用いられる処格 (L.)	213
8. 不変化辞に支配される処格 (L.)	215
9. 副詞化した処格 (L.)	216
§129. 処格と属格の絶対句——絶対処格と絶対属格の用法	218
1. 絶対処格 (L. Abs.)	218
2. 絶対属格 (G. Abs.)	226
3. 絶対処格と絶対属格の共通の用法	228
§130. 呼格の用法	228
1. 間投詞をともなわない場合	228
2. 間投詞をともなう呼格	229
3. 呼格の格形で用いられる語	230
II ● 文の種類	234
§131. 否定文	234
1. na を用いた一般的な否定文	234
2. a-(an-) を用いた否定	240
3. 禁止をあらわす文	243
§132. 疑問文	245

1. 疑問詞・疑問の不変化辞を用いた疑問文	246
2. 疑問詞・疑問をあらわす不変化辞を用いない疑問文	251
§133. 単文	252
1. 主語	253
2. 述語	256
3. 目的語	265
§134. 重文	266
1. 累加的関係	266
2. 反意的関係	268
3. 推論的關係	270
§135. 複文	271
1. 関係代名詞・関係形容詞に導かれる従属節	272
2. 接続詞化した関係代名詞 yad-, および yad- の格変化形に導かれる従属節	273
3. 関係副詞によって導かれる従属節	273
III ● サンスクリット文の特色	275
§136. サンスクリット文の特色	275
1. 名詞文	275
2. 受動表現	276
3. 抽象名詞による表現	278
4. 複合語の使用	279

第12講 形容詞・代名詞・数詞の用法	283
§137. 形容詞の用法	284
1. 形容詞の基本的用法	284
2. 比較級の用法	286

2211

11 26 1

3. 最上級の用法	288	4. 条件文における現在時制	431
4. -tara, -tama の副詞としての用法	290	5. 命令・奨励・禁止などをあらわす現在時制	435
§138. 人称代名詞・指示代名詞の用法	290	§143. 過去をあらわす3時制の用法	437
1. 人称代名詞の用法	291	1. 3種の過去時制	437
2. 指示代名詞の用法	309	2. 古典サンスクリットにおける過去時をあらわす3時制の用法	445
3. 指示代名詞の語基からつくられる形容詞・副詞の用法	320	§144. 未来時制の用法	447
§139. 関係詞の用法	323	1. 単純未来	448
1. 関係代名詞の用法	323	2. 複合未来	455
2. 関係形容詞	336	§145. 願望法の用法	456
3. 関係副詞の用法	340	1. 願望・懇願・期待・祈願	456
4. 接続詞化した関係代名詞の用法	359	2. 命令・規制・規範・勧告	457
§140. 疑問詞・不定代名詞・所有代名詞・再帰代名詞の用法	364	3. 許可・可能・妥当などをあらわす願望法	460
1. 疑問詞の用法	364	4. 推定・近い未来・見込み(不確実)・疑問などをあらわす願望法	461
2. 不定代名詞の用法	375	5. 仮定・条件・譲歩とその結果をあらわす願望法	463
3. 所有代名詞の用法	383	6. 譬喩をあらわす文中の願望法	464
4. 再帰代名詞の用法	384	7. 適時をあらわす願望法	465
5. 相互代名詞の用法	389	§146. 命令法(指令法を含む)の用法	465
§141. 数詞の用法	394	1. 命令・勧告・勧誘・規範をあらわす命令法	465
1. 基数詞の用法	394	2. 願望・懇願をあらわす命令法	468
2. 序数詞の用法	405	3. 祈願・祝福をあらわす命令法	469
3. 分数の用法	407	4. 疑問・可能性・蓋然性をあらわす命令法	470
4. 倍数の用法	415	5. 一人称命令法の用法	472
第13講 動詞の用法	417	6. 丁寧な命令・要請をあらわす三人称命令法・三人称受動命令法	475
§142. 現在時制の用法	418	7. 命令法の慣用句	479
1. 現在の動作・状態, 一般的事実・真実の叙述	418	8. 禁止をあらわす命令法・指令法, およびその他の命令をあらわす用法	483
2. 未来をあらわす現在時制	422	9. 命令法の特種用法	489
3. 過去をあらわす現在時制	426		

§147. 祈願法の用法	490
§148. 条件法の用法	492
§149. 意欲活用の用法	494
1. 動作主の意欲	495
2. 近い未来, 差し迫った事柄	497
§150. 強意活用の用法	499
§151. 名詞起源動詞の用法	500
§152. 受動活用の用法	502
1. 本来的な受動活用の用法	503
2. 受動表現としての受動活用の用法	505
3. 能動構文と受動構文の転換	509
4. 非人称受動活用の用法	511
5. 受動活用の再帰用法	513
§153. 使役活用の用法	517
1. 使役活用の一般的用法	517
2. 使役構文中の動作主の格	518
3. 使役受動活用の用法と使役受動構文中の動作主の格	523
第14講 準動詞の用法	529
§154. 現在分詞・未来分詞の用法	530
1. 現在分詞の用法	530
2. 未来分詞の用法	538
§155. 過去分詞(受動・能動)・完了分詞の用法	541
1. 過去受動分詞の用法	541
2. 過去能動分詞の用法	554
3. 完了分詞の用法	556
§156. 未来受動分詞(動詞的形容詞)の用法	558
1. 述語として用いられる未来受動分詞	559

2. 修飾語として用いられる未来受動分詞	567
§157. 絶対分詞の用法	568
1. -tvā, -ya(-tya) で終る絶対分詞	569
2. -am で終る絶対分詞(ṇamul; khamun)の用法	580
§158. 不定詞	585
1. 願望・欲求, 開始・努力・企画, 認識を意味する動詞とともに用いられる不定詞	586
2. 可能・能力・忍耐・適当・適時を意味する語とともに用いられる不定詞	589
3. 不定詞の能動と受動	594
4. 名詞を修飾する不定詞	596
5. 複合語の前分として用いられる不定詞	597
第15講 不変化辞の用法	599
§159. 副詞の用法	600
1. 副詞の一般的用法	600
2. 副詞的小辞の用法	607
§160. 前置詞の用法	611
1. 本来の前置詞の用法	612
2. 前置詞的副詞の用法	620
3. 名詞派生の前置詞の用法	630
4. 前置詞化した絶対分詞の用法	632
§161. 接続詞の用法	633
1. 対等の関係をあらわす接続詞(等位接続詞)の用法	633
2. 従属関係をあらわす接続詞の用法	660
§162. 間投詞の用法	675
1. 本来的な間投詞の用法	676
2. 意味をもつ語から派生した間投詞	686